

(5) セメント工業

13 / 12 14 / 13 ◎ 伸び率 10%以上 ● 伸び率 0 ~ ▲ 10%
: 天気図マーク; ● ○ 伸び率 0 ~ 10% ● 伸び率 ▲ 10%以下

1. 企業経営動向

1) 需要

平成13年度は、前年度よりセメントの輸出量は増加したものの、依然として国内販売が不振であったため、需要は前年を下回った値で推移。平成14年度に入ってもその傾向は続くと見られる。まず、輸出については、主要地域である東南アジアにおいて供給過剰の輸出環境という見通しのため、若干減少する見込みである。一方、輸入については国内需要が厳しい状況であり今後も減少していく見込みである。また、内需については、官公需における公共事業の削減や、民需における設備投資・住宅投資の回復が見込めないといった依然厳しい状況が続くと見られ、こうしたことから需要については、当面、減少が続くと見込まれる。

2) 生産、設備

直近の動向としては、平成13年度のセメント生産は7,912万トンと対前年度比4.0%減となった。国内販売は同5.0%減、輸出量は同5.2%増となっている。期末在庫については同6.9%増加している。また、ここ数年のセメント生産高の落ち込みによる稼働率の低下から工場の統廃合が進み、平成14年4月時点での設備能力は8,028万トン、工場数は36となり、平成7年度から比べると生産能力は▲17.7%、工場数は5工場減少した。

3) 企業収益

平成13年度は、セメントの輸出数量は前年より増加したものの国内販売の不振により売上は伸び悩み、営業利益は減益となった。

平成14年度については、国内販売の伸び悩みなどから、厳しい状況が続くと見込まれる。

4) 財務

平成13年度に引き続き平成14年度も、財務構造の改善を目的とする有利子負債の更なる削減が見込まれる。

2. 設備投資動向(これまでの推移、12年度実績、13年度実績見込、14年度計画)

- ・セメント産業の設備投資の動向を見ると、セメント生産量の減少からその主な投資目的は維持・補修や合理化・省力化で、その傾向は続いている。(各年度とも生産能力増強への投資の割合が高いが、これは直接セメント製造に関係するものではない)
- ・平成12年度の設備投資実績については、設備投資の主な投資目的として維持・補修及び合理化・省力化となっている。
- ・平成13年度の設備投資実績見込額については、設備の維持・補修に対する経費に4割と約半数を占め、次いで設備の合理化・省力化へ2割強の投資となる見込み。
- ・平成14年度設備投資計画額については、過去の傾向とあまり変化が見受けられないが、省エネルギー・新エネルギーと環境保全投資への見込み額を合算した割合が他の年度と比べて高くなっており、業界の更なる廃棄物処理対策への取り組み等が期待される。

3. 長期資金調達・運用動向(長期資金運用動向、長期資金調達動向)

・長期資金調達・運用状況について

平成13年度見込みと比較して平成14年度は、長期資金運用の動向については、短期資金への振り替えは増額することにより増加する見込みである。また、長期資金調達については、引き続き借入金借入金残高を減らす傾向にあり、また内部資金はほぼ横這いとなる見込み。

(グラフ1：設備投資の前年度比の推移)

